

# 東北支援をもう1年継続

## スポーツ・料理交流…第5次も仙台豊齢と協働で

東北支援活動を26年度も継続しよう――一年頭の理事会で堺理事長が「東北支援活動は4年目を迎える。この3年、私たちがやってきた活動は被災地でも高い評価をいただいております、今年も女川・石巻・名取・仙台などへ支援チームを派遣したい」と決意を述べ、グループ〈わ〉会員に協力を呼びかけました。昨夏、一緒に活動した仙台豊齢学園側も乗り気で、双方で準備を進めることになりました。村の福祉振興協会とはすでに第5次派遣で合意しており、26年度も3者協働の活動となりそうです。（東北プロジェクト・南形徹）

豊齢学園へは11月26日に南形徹・海野龍英理事が女川へ出張した際に訪問。学園の菅原課長・伊藤係長・豊齢ネットの湯村議長と懇談し、「第5次も一緒にやりましょう」との意思確認をしました。派遣時期は7月ごろ。訪問先は女川、名取のほか亘理も候補地としてあがっています。プログラムは第4次で好評だった手料理の交流・スポーツ大会・昔遊びなどをメインに双方で具体案を検討します。

昨年の第4次活動（手料理・七夕飾り・ディスコン・お手玉）について、学園側から「協働でやって良かった。参加した4グループのスタッフも感謝している」と発言があり、〈わ〉からも「反省点は多いが、地元のボランティアグループと一緒にできて有意義だった」と応じました。

### 女川社協に招かれ講演



女川町の社協福祉大会（11月27日）にグループ〈わ〉が招待され、南形徹副理事長がパネラーとして講演。第1～4次支援チームの活動ぶりを映像と共に紹介し、「女川でも高齢者のボランティアグループを増やそう」と呼びかけました。他に3人のパネラーが体験報告。

女川原発地区の木村尚区長は「津波に追われ原発の建物内に逃げ込んだ。暖房厳禁。陸路も海路もだめで、おにぎり1個を分け合うという生活が1週間ほど続いた」と涙ながらに訴え、地元で釣具店を開いている若い男性（川村辰徳さん）と、震災後に故郷



▲村の本館に仙台・東六郷小の児童を迎えて（12月11日）にUターンしてきた若い女性（遠藤ひかりさん）からは、「女川を元気づけるイベント活動をしている」と現状報告がありました。地元以外の発表は〈わ〉だけで、これまで3度にわたって女川を訪問している実績が認められたものと思っています。

大会には海野龍英理事も参加、町長や社協関係者と交流を深めました。「1万人の人口が現在は6000人ほどに減っている。今後も女川復興に協力してほしい」と訴えられました。町内は、10mもの嵩上げ工事や、復興住宅建設、護岸堤防復旧が進んでおり、全域が工事現場の様相でした。女川中学校に建つ「いのちの石碑」（高さ2m、幅1m＝写真⑤）を見してきました。津波の恐ろしさを千年は忘れまいとの願いが込められています。建設費1千万円は在校生が駆け回って集めたという話を聞いてびっくり。子供たちの熱いエネルギーに心打たれました。

### 東六郷小の子供たち神戸へ

仙台市若林区にある東六郷小学校の児童6人が神戸市教委の招待で12月11～13日に神戸を訪れ、ルミナリエを見学したり住吉小など4校で交流会を楽しんだりしました。11日昼にはしあわせの村を訪れ、振興協会やグループ〈わ〉の関係者と再会を喜びあいました（東六郷小へはグループ〈わ〉も毎年支援チームを派遣しています）。